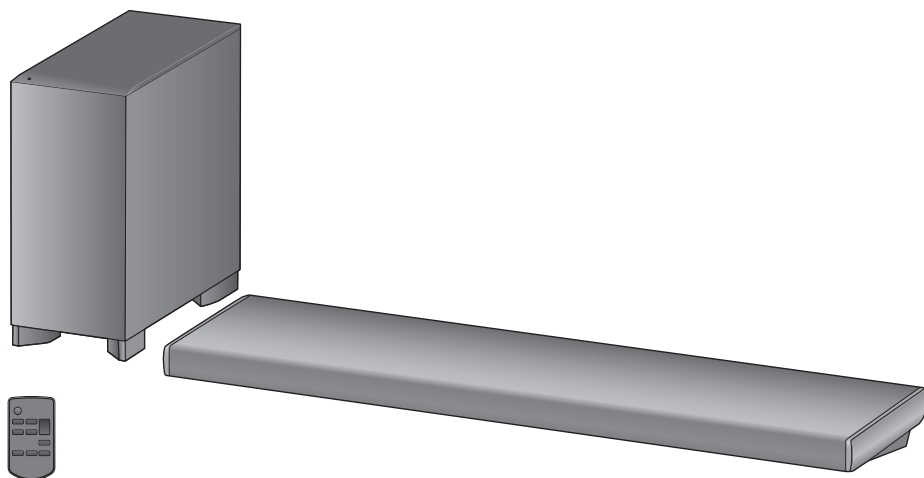
Panasonic®

# 取扱説明書
## ホームシアターオーディオシステム
品番 SC-HTB690

安全上のご注意
はじめに
準備する
楽しむ
困ったときは?・他

保証書別添付

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

●取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
●**ご使用前に「安全上のご注意」(3 ～ 5 ページ ) を必ずお読みください。**
●保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

● **本書では、本体の壁掛け方法を説明しています。(17 ～ 19 ページ )**
● **取り付けや取り外しの際は、必ず工事専門業者または販売店に依頼してください。**
● **取り付け不備、取り扱い不備による事故、損傷については、当社は責任を負いません。**

# 目次

**「安全上のご注意」を必ずお読みください。（➜3～5ページ）**

## はじめに



## 準備する



## 楽しむ



## 困ったときは？ 他



**本書内の表現について**
- 本書内で参照していただくページを（⇨ ○○）で示しています。
- 本書では、本機またはリモコンの表示を[ ○○ ]で示しています。
- 本書では、リモコンでの操作を中心に説明しています。

**音のエチケット**

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。適度の音量にして隣り近所へ配慮しましょう。特に静かな夜間には窓を閉めるのも一つの方法です。

音のエチケット
シンボルマーク

# 安全上のご注意（必ずお守りください）

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■　**誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。**

| | | |
|---|---|---|
|  | **警告** | 「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。 |
|  | **注意** | 「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。 |

■　**お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。（次は図記号の例です）**

| | |
|---|---|
|  | してはいけない内容です。 |
|  | 実行しなければならない内容です。 |

## 警告

### 異常・故障時には直ちに使用を中止する

**異常があったときには、電源プラグを抜く**

- **煙が出たり、異常なにおいや音がする**
- **映像や音声が出ないことがある**
- **内部に水や異物が入った**
- **電源プラグが異常に熱い**
- **本体に変形や破損した部分がある**

**電源プラグを抜く**

そのまま使うと火災・感電の原因になります。

- 電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、販売店にご相談ください。
- 電源プラグはすぐに抜けるように容易に手が届く位置のコンセントをご使用ください。

### 電源コード・プラグを破損するようなことはしない（傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重い物を載せる、束ねるなど）

傷んだまま使用すると、感電や、ショートによる火災の原因になります。

- コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

### コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、交流 100 V 以外での使用はしない

たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

### 電源プラグのほこり等は定期的にとる

プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因になります。

- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

### 電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

- 傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは、使わないでください。

### 雷が鳴ったら、本機や電源プラグに触れない

**接触禁止**

感電の原因になります。

### ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない

**ぬれ手禁止**

感電の原因になります。

### 心臓ペースメーカーを装着している方は本機を装着部から 22 cm 以上離す

本機からの電波がペースメーカーの作動に影響を与える場合があります。

## ⚠警告

**自動ドア、火災報知機などの自動制御機器の近くで使用しない**

本機からの電波が自動制御機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。

**病院内や医療用電気機器のある場所で使用しない**

本機からの電波が医療用電気機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。

**内部に金属物を入れたり、水などの液体をかけたりぬらしたりしない**

ショートや発熱により、火災・感電の原因になります。

- 機器の上に水などの液体の入った容器や金属物を置かないでください。
- 特にお子様にはご注意ください。

**ねじ類やコイン電池は、乳幼児の手の届くところに置かない**

誤って飲み込むと、身体に悪影響を及ぼします。

- 万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。

**壁掛けの取り付け強度は 26 kg 以上を確保する**

強度が不足すると、落下してけがの原因になります。

**長期使用を考慮して設置場所の強度を確保する**

長期使用により設置場所の強度が不足すると落下してけがの原因になります。

**分解、改造をしない**

内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。

**工事専門業者以外は取り付け工事や取り外しを行わない**

工事の不備により、落下してけがの原因になります。

**垂直な壁以外の場所に取り付けない**

落下したり、破損して、けがの原因になることがあります。

**本取扱説明書で指示した以外の取り付けは行わない**

落下したり、破損して、けがの原因になることがあります。

**荷重に耐えられない場所に取り付けない**

取り付け部の強度が弱いと、落下してけがの原因になります。

## ⚠注意

**長期間使わないときや、お手入れのときは、電源プラグを抜く**

通電状態で放置、保管すると、絶縁劣化、ろう電などにより、火災の原因になることがあります。

**取り付けねじや電源コードが壁内部の金属部や配線部材と接触しないように設置する**

壁内部の金属部や配線部材と接触して、感電の原因になることがあります。

# ⚠注意

**取り付けの際は、専用の構成部品を使用する**

機器本体が落下したり、破損して、けがの原因になることがあります。

**コードを接続した状態で移動しない**

接続した状態で移動させようとすると、コードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。また、引っかかって、けがの原因になることがあります。

**コイン電池は誤った使いかたをしない**

- **指定以外の電池を使わない**
- **⊕と⊖は逆に入れない**
- **加熱・分解したり、水などの液体や火の中に入れたりしない**
- **ネックレスなどの金属物といっしょにしない**

取り扱いを誤ると、液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、火災や周囲汚損の原因になることがあります。

**不安定な場所に置かない**

- 高い場所、水平以外の場所、振動や衝撃の起こる場所に置かない

倒れたり落下すると、けがの原因になることがあります。

**本機の上に重い物を載せたり、乗ったりしない**

倒れたり落下すると、けがの原因になることがあります。また、重量で外装ケースが変形し、内部部品が破損すると、火災・故障の原因になることがあります。

**テレビ台やラックなどに置いたり、テレビの前に置いて使うときは、落下・転倒防止処置をする**

倒れたり落下すると、けがの原因になることがあります。

- 落下・転倒防止処置は必ず工事専門業者にご依頼ください。

**機器本体を取り外す場合には、壁掛け金具も取り外す**

壁掛け金具に当たるなどして、けがの原因になることがあります。

**安全に操作するために、適切な高さに取り付ける**

無理な体勢での操作は落下したり、けがの原因になることがあります。

**湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気、熱が当たるところ、エアコンの下などの水滴がかかるおそれのあるところに取り付けない**

電気が油や水分、ほこりを伝わり、火災・感電の原因になることがあります。

**異常に温度が高くなるところに置かない**

温度が高くなりすぎると、火災の原因になることがあります。

- 直射日光の当たるところ、ストーブの近くでは特にご注意ください。
- また、外装ケースや内部部品が劣化する原因にもなりますのでご注意ください。

**放熱を妨げない**

内部に熱がこもると、火災の原因になることがあります。

- 背面の通風孔をふさがないでください。
- また、外装ケースが変形する原因にもなりますのでご注意ください。

**アクティブサブウーハーの下部の開口部に手や足を入れない**

誤ってスピーカーの転倒によるけがの原因になることがあります。

- 特にお子様にはご注意ください。

# 同梱品

## 本機（SC-HTB690）

| □ 本体（ 1 個） | □ アクティブサブウーハー（1 個） |
|---|---|
|  |  |

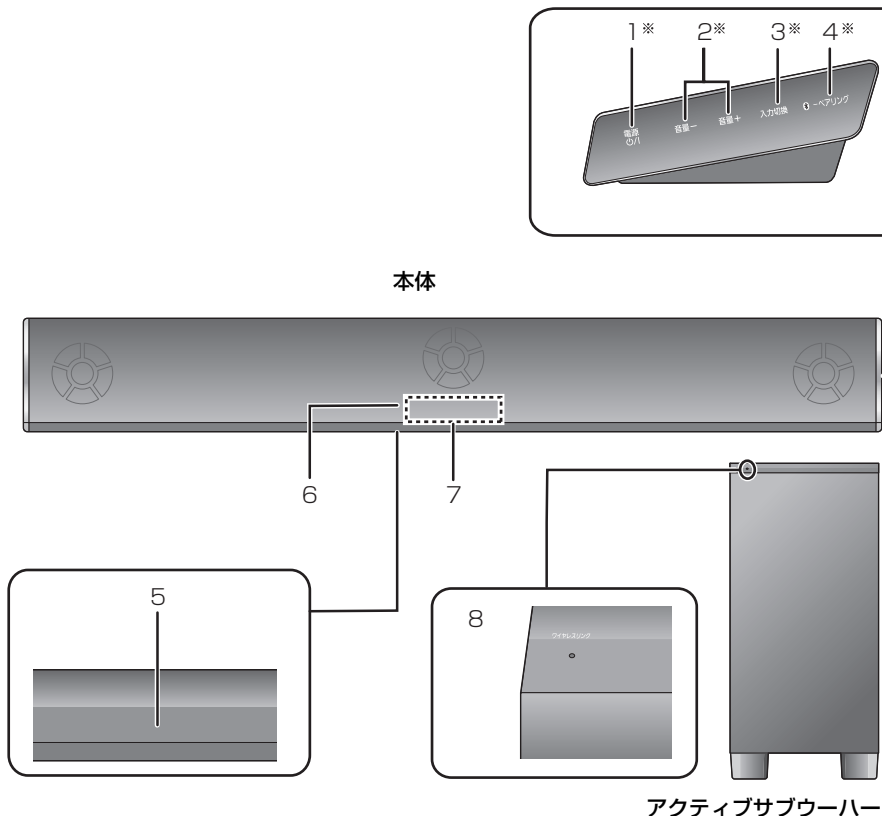
## 付属品

付属品をご確認ください。

| □ リモコン（ 1 個）<br>N2QAYC000101 | □ 本体用電源コード（ 1 本）<br>SFQ0019 | □ アクティブサブウーハー用電源コード（ 1 本）<br>SFQ0020 |
|---|---|---|
| □ HDMI ケーブル（ 1 本）<br>（1.5 m）<br>K1HY19YY0039 | □ Ir システムケーブル（1 本）<br>SFQ0014 | □ 壁掛け金具 （2 個）<br>RMQ2281A<br>RMQ2281B |
| □ ねじ（2 本）<br>XYN5+J14JK | | |

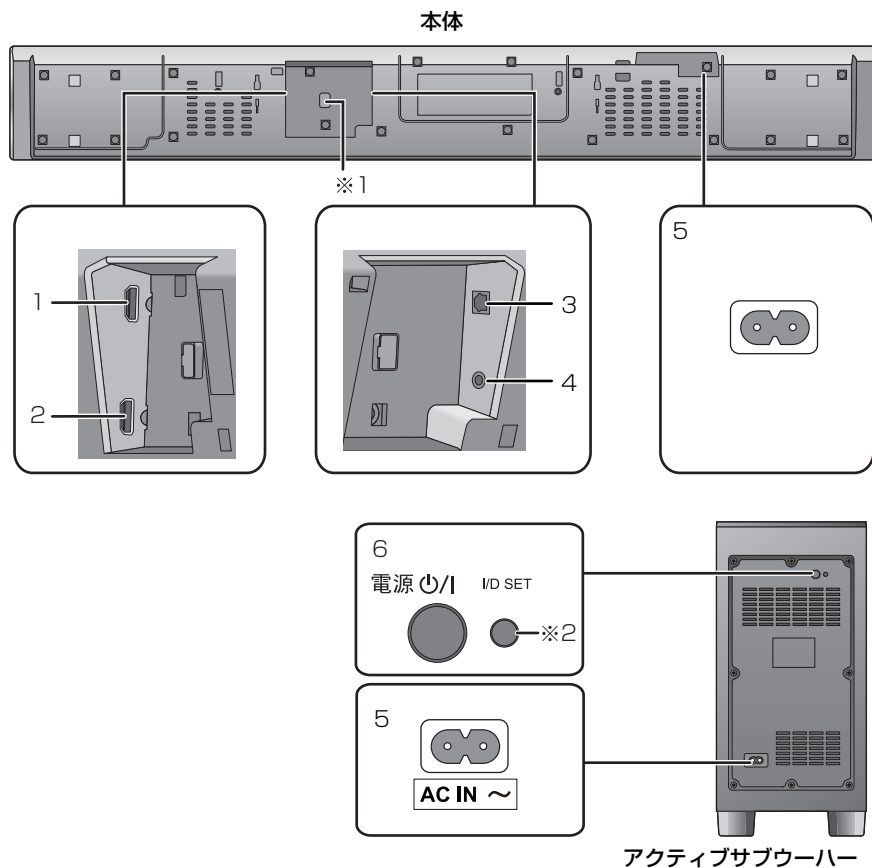
- 付属品の品番は、2015 年 3 月現在のものです。変更されることがあります。
- 電源コードは、本機専用ですので、他の機器には使用しないでください。
  また、他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
- 包装材料などは商品を取り出したあと、適切に処理をしてください。
- 小物部品については乳幼児の手の届かないところに適切に保管してください。
- イラストと実物の形状は異なっている場合があります。

# 各部の名前と働き

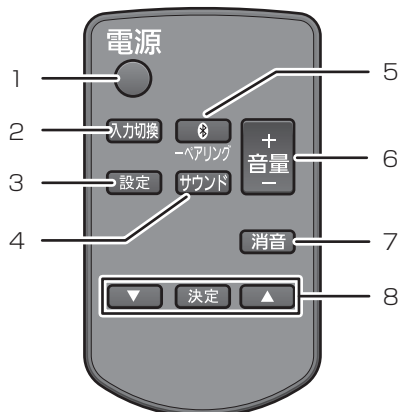
## 本機（前面）

1　[ 電源 ⏻/I] 電源を切 / 入する
2　[ 音量－ ][ 音量 +] 音量を調節する (⇨ 22)
3　[ 入力切換 ] 接続している機器を選ぶ (⇨ 22)
4　[ Bluetooth - ペアリング ]
- Bluetooth® を音源に選ぶ (⇨ 22)
- Bluetooth® 機器とペアリングする (⇨ 20、21)
- Bluetooth® 機器との接続を解除する (⇨ 21)

5　リモコン受信部（テーブル置き時）(⇨ 9)
6　リモコン受信部（壁掛け時）(⇨ 9)
7　表示窓
8　ワイヤレスリンクランプ (⇨ 20)

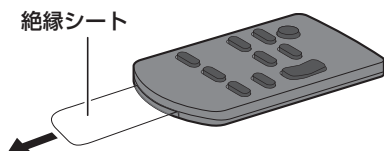
※　タッチ方式を採用しているため、触れるだけで働きます。タッチキーに触れると操作音が鳴ります。
操作音が鳴らないようにすることができます。(⇨ 26)

## 本機（後面）

1 HDMI 映像･音声出力端子「テレビ（ARC対応）」(⇨ 10、11)
2 HDMI 映像･音声入力端子「BD/DVD」(⇨ 11)
3 光デジタル音声入力端子「テレビ」(⇨ 11)
4 Ir システム端子 (⇨ 12)
5 AC入力端子(⇨ 13)
6 [ 電源 ⏻/I] アクティブサブウーハー電源ボタン (⇨ 20)

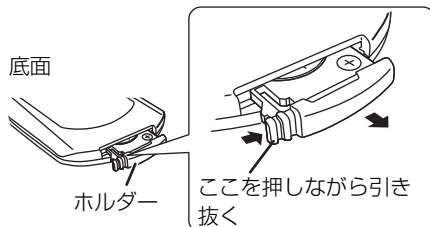
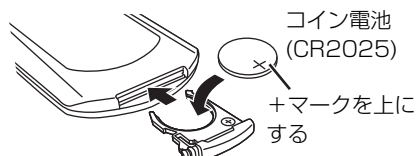
※ 1 USB 端子は、修理業者が本体の修理サービスを行う場合にのみ使用します。通常は使用しません。
※ 2 I/D SETボタンは、本体とアクティブサブウーハーのペアリングが必要な場合にのみ使用します。(⇨ 33) 通常は使用しません。

## リモコン

1 [ 電源 ] 電源を入 / 切する
2 [ 入力切換 ] 入力を切り換える(⇨ 22)
3 [ 設定 ] 設定を切り換える(⇨ 26)
4 [ サウンド ] 音声設定を切り換える
(⇨ 23 ～ 25)
5 [ - ペアリング]
- Bluetooth® を音源に選ぶ (⇨ 22)
- Bluetooth® 機器とペアリングする
(⇨ 20、21)
- Bluetooth® 機器との接続を解除する
(⇨ 21)

6 [– 音量 +] 音量を調節する(⇨ 22)
7 [ 消音 ] 音声を消す(⇨ 22)
8 [▼][ 決定 ][▲] 項目を選んで決定する

絶縁シートを引き抜いてからお使いください。

- 引き抜いた絶縁シートは、適切に処理をしてください。

### ■ コイン電池を交換する

① ホルダーを引き抜く

② 電池を入れてホルダーを戻す

- 電池を廃棄する場合は、不燃ごみとして処理してください。（または、地方自治体の条例に従ってください）

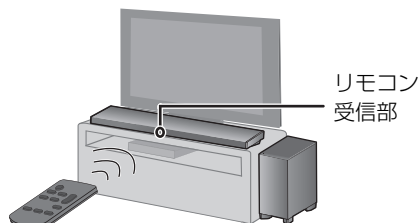
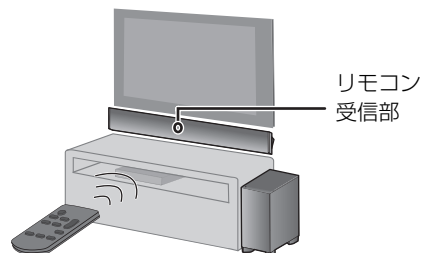
### ■ リモコン受信部について

**リモコンは下記の受信範囲内で使用してください。**

正面 約7 m 以内、左右 各約 30°

テーブル置き時

壁掛け時

はじめに

# 準備 1　接続する

- 接続するときは、各機器の電源を切ってください。
- 接続するテレビや各機器の説明書もご覧ください。

**すべての接続が完了するまで、各機器の電源コードをコンセントに接続しないでください。**

■ **付属以外の HDMI ケーブルをご使用される場合**
- HDMI ケーブルは「ハイスピード HDMI ケーブル」をお買い求めください。
  HDMI 規格に準拠していないケーブルでは動作しません。

■ **スタンバイパススルー機能**
- 接続している HDMI 対応機器（ブルーレイディスクレコーダーや DVD レコーダーなど）の映像や音声は本機の電源が「切」の時も本機を通過してテレビへ伝送されます。

■ **本機は 3D に対応しています**
- 3D対応テレビ、3D 対応のブルーレイディスクレコーダー/プレーヤーを本機に接続して、市販のブルーレイ3Dディスクなどを迫力ある3D映像でお楽しみいただけます。

■ **本機は 4K/60p に対応しています**
- 4K対応テレビ、4K 対応のブルーレイディスクレコーダー/プレーヤーを本体に接続して、大画面でも高精細で滑らかな映像でお楽しみいただけます。
  （18 Gbps 対応のハイスピード HDMI ケーブルが 2 本必要です）
- 4K/60p をお楽しみになりたい場合は、18 Gbps 対応のハイスピード HDMI ケーブルが必要です。本機は 18 Gbps 対応の「ハイスピード HDMI ケーブル」を付属しています。

## テレビと接続する

### 1　テレビの HDMI 入力端子に「ARC 対応」の表示があるかを確認する

「ARC 対応」の表示がある場合とない場合では、接続が異なります。
**「ARC 対応」表示あり：A の接続**
**「ARC 対応」表示なし：B の接続**

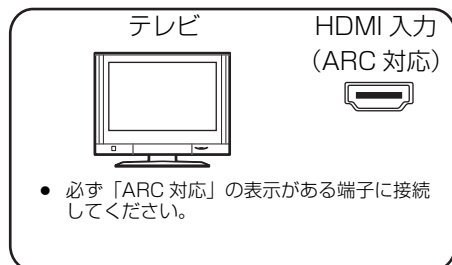
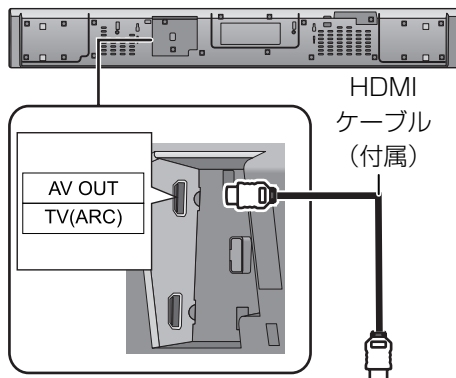
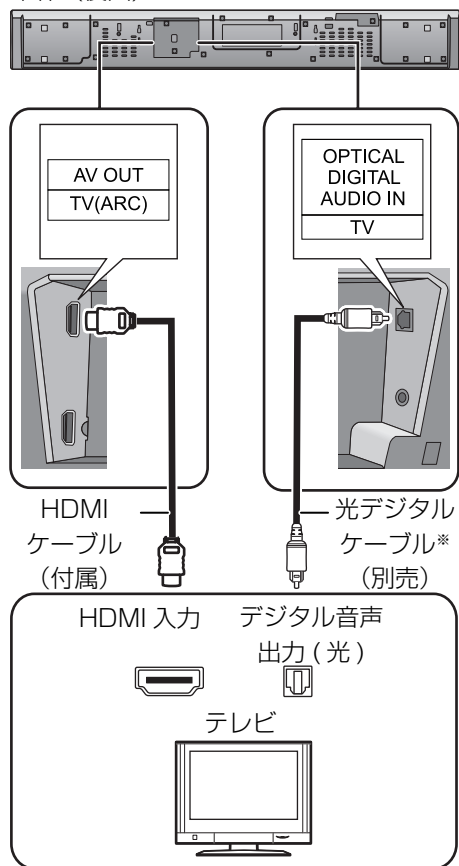
**ARC とは**

- ARC とは Audio（オーディオ） Return（リターン） Channel（チャンネル） の略称で、HDMI ARC とも呼ばれ、HDMI が持つ機能の一つです。
  「ARC 対応」と書かれた端子と本機を HDMI 接続すると、従来テレビからの音声を聴くために必要だった光デジタルケーブルが不要になり、HDMI ケーブル 1 本でテレビの映像と音声が楽しめるようになります。
- 他社製テレビで、ARC 対応であるにもかかわらず音声が本機に出力されないときは、光デジタルケーブルが必要な場合があります。お使いになるテレビの説明書をご覧ください。

### 2　接続する

A **「ARC 対応」表示あり**

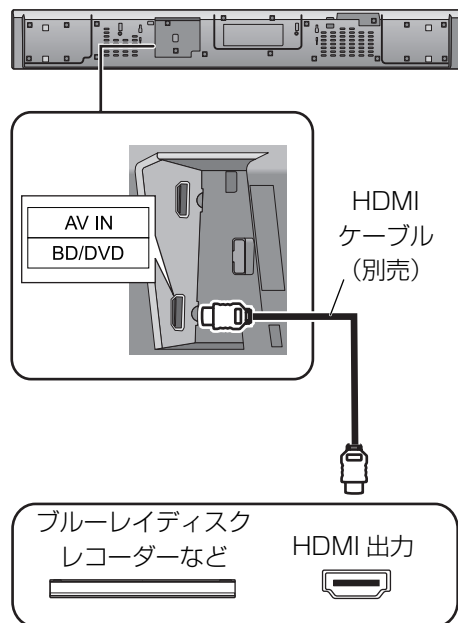
本体（後面）

- 必ず「ARC 対応」の表示がある端子に接続してください。

B 「ARC 対応」表示なし

※ 形状を合わせて差し込む（ケーブルを急な角度で折り曲げない）

## ブルーレイディスクレコーダーなどの機器を接続する

ブルーレイディスクレコーダーや DVD レコーダーなどの機器を接続することができます。

**準備する**

- 本機をテレビと接続する (⇒ 10)

- 4K/60p をお楽しみになりたい場合は、18 Gbps 対応のハイスピード HDMI ケーブルが必要です。

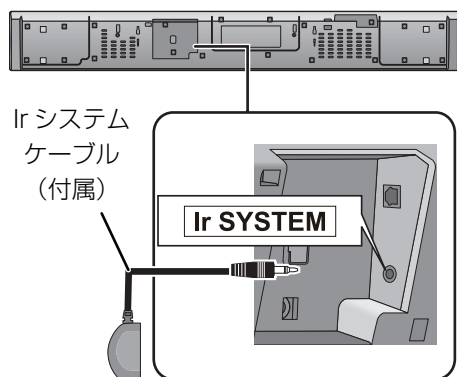
準備する

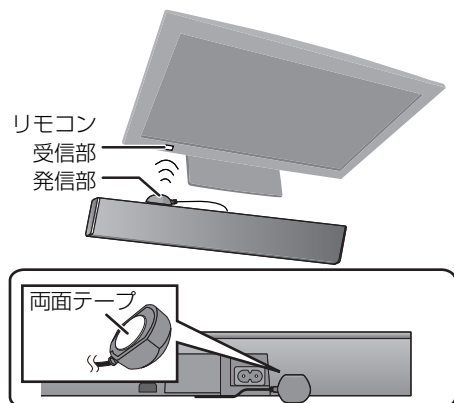
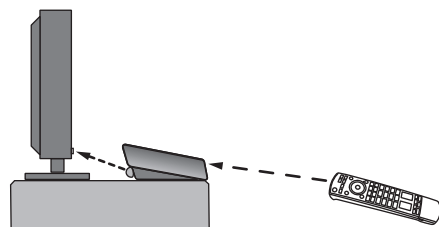
## 付属の Ir（アイアール） システムケーブルを使う（テレビのリモコンが働かないとき）

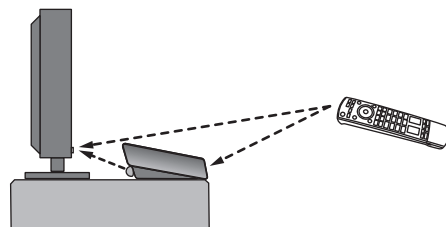
本体の置き方によっては、テレビのリモコン受信部を遮ってしまい、テレビのリモコンが働かないことがあります。その場合は付属の Ir システムケーブルをお使いください。
本体が受けたテレビのリモコン信号をテレビのリモコン受信部に送ってテレビを操作することができます。

- リモコンの受信範囲については (⇨ 9)
- 付属以外の Ir システムケーブルは使用しないでください。

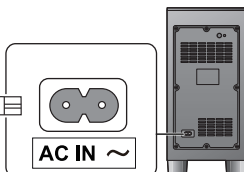
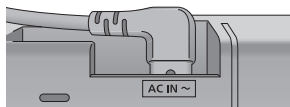
### 1 Ir システムケーブル（付属）を接続する

本体（後面）

### 2 発信部をテレビのリモコン受信部に向けて取り付ける

本体背面に取り付ける場合：

### 3 テレビのリモコンを本機のリモコン受信部に向けてテレビを操作する

**お知らせ**

- テレビのリモコン受信部の位置については、テレビの説明書をご覧ください。
- お使いになる環境に合った取り付け場所を選んでください。
- 取り付ける箇所のごみやほこりは、しっかりと取り除いてください。
- 両面テープは接着力が強いため、無理にはがすと棚など板の表面を傷めることがあります。
- テレビリモコンと Ir システムからの信号がテレビのリモコン受信部に届く場合、信号が干渉してテレビを操作することができない場合があります。その場合はリモコンの操作角度を変えてみてください。

## 電源コードを接続する

**電源コードは必ず最後に接続してください。**

本体（後面）

※　確実に差し込んでください。

**お知らせ**

- 本機は、電源を切った状態でも電力を消費しています (⇨ 34)。長期間使用しないときは、節電のために電源プラグを抜いておくことをお勧めします。電源プラグを抜くときは、必ず先に本機の電源を切ってください。

準備する

# 準備２　設置する

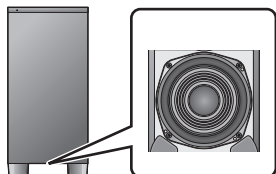
## 本体の設置

**取り付け不備、取り扱い不備による事故、損傷については、当社は責任を負いません。本取扱説明書で指示した以外の取り付けは行わないでください。**

- 本体を持ち運ぶときは、必ず両手で持って運んでください。片手で持つと落下するおそれがあります。

## アクティブサブウーハーの設置

■　**持ち運ぶときは**

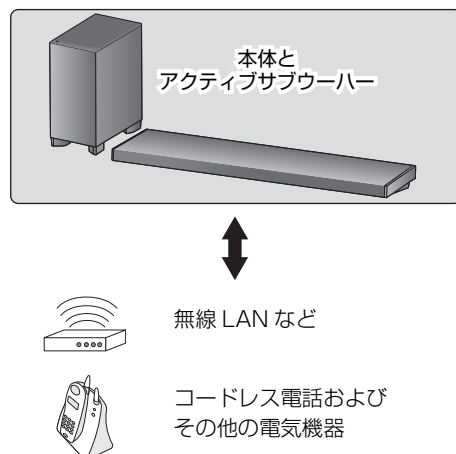
内側のスピーカーユニットを傷めないようお気をつけください。

**お知らせ**

- 内側のスピーカーユニットの保護カバーを取り外してからお使いください。
- アクティブサブウーハーをブラウン管テレビなどの画面に近づけると、スピーカーの磁気により、テレビ画面に色ムラ、画像の歪みが発生する場合があります。この場合、アクティブサブウーハーをそれらの症状が発生しない場所まで移動してください。
- テレビに無線 LAN 機能ある場合、電波干渉により通信に不具合（音が途切れる / 音が飛ぶ / 雑音が多いなど）が発生する場合があります。この場合、アクティブサブウーハーを電波干渉が発生しない場所まで移動してください。

## 他機器との干渉について

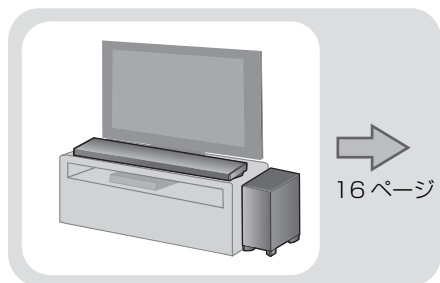
**他の 2.4 GHz 帯 の周波数帯を使用している機器（無線 LAN/ 電子レンジ / コードレス電話など）を使用すると、電波干渉により通信に不具合（音が途切れる / 音が飛ぶ / 雑音が多いなど）が発生する場合があります。この場合、その他の電気機器を電波干渉が発生しない場所までメインユニットおよびアクティブサブウーハーから離してください。**

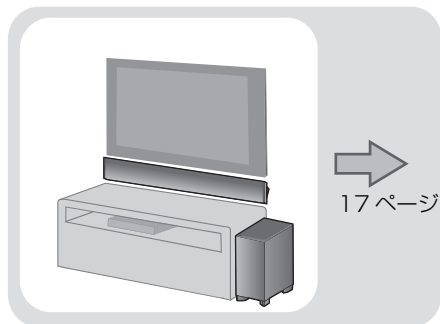
無線 LAN など

コードレス電話および
その他の電気機器

## 設置方法を選ぶ

- 設置方法は一例です。
- お使いになる環境に応じた設置方法をお選びください。

**置く場合**

本体は平らで水平な場所に設置してください。

**壁掛けする場合**

本体は平らで垂直な場所に設置してください。

**■ テレビの前に設置するとき**

本体がテレビの各種センサー（明るさセンサーなど）や、リモコン受信部、3D 対応テレビの「3D グラス用発信部」を遮る可能性があります。そのときは、以下の処置をお試しください。

- 各種センサーなどが正常に動作する位置まで本体をテレビから離す。
- 本体をラックなどの中に設置するか、壁掛けする。
- 付属の Ir システムケーブルを使う。(⇨ 12)( 当社製テレビのリモコン受信部にのみ有効 )

### お知らせ

- 本体から数 m 以内の平らな場所に上部パネルを上にしてアクティブサブウーハーを設置してください。
- 本体やアクティブサブウーハーを金属製の棚などに設置しないでください。
- アクティブサブウーハーを壁やお部屋の角に近づけすぎると、低音が出すぎる場合があります。壁や窓を厚いカーテンで覆うと改善されることがあります。
- 本体やアクティブサブウーハーに磁気カードや時計など磁気の影響を受けやすいものを近づけないでください。磁気カードや時計などが正常に動作しなくなることがあります。

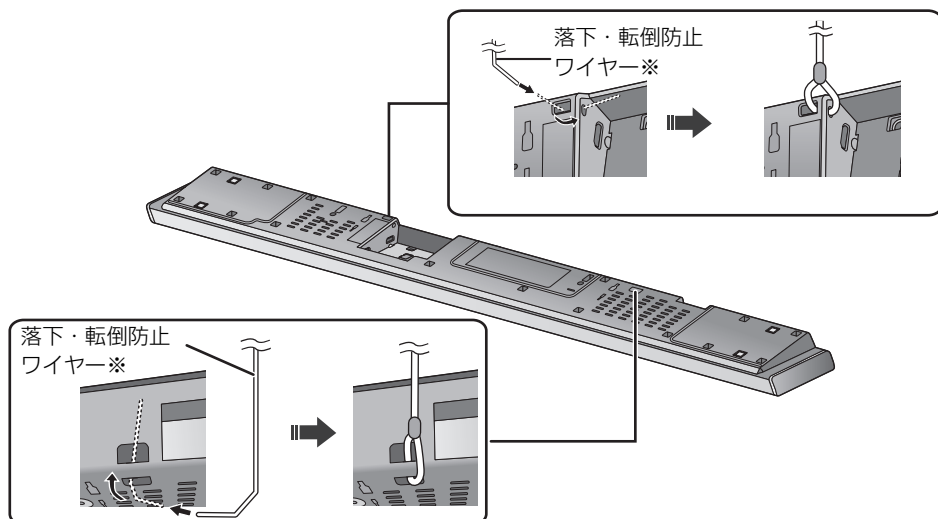
## 置く場合　ー必ず工事専門業者にご依頼くださいー

**準備する市販品**

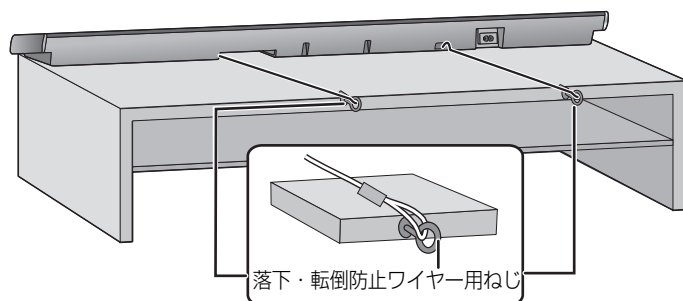
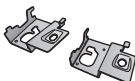
| 落下・転倒防止ワイヤー（2本）<br>（直径約 1.5 mm） | 落下・転倒防止ワイヤー用ねじ<br>（2本） |
|---|---|

**お知らせ**

- 落下・転倒防止ワイヤーおよび落下・転倒防止ワイヤー用ねじは 26 kg 以上の質量を支えられる強度が必要です。
- 本体をより安全に使用するために、必ず落下・転倒防止ワイヤーを取り付けてください。
- 取り付け作業は、柔らかい毛布や布などの上で行ってください。

### 1　本体に落下・転倒防止ワイヤーを取り付ける

※　落下・転倒防止ワイヤーが穴に通しにくい場合は、上のイラストのようにワイヤーの先端から約5 mm 間隔で2か所を約45° に曲げてください。

### 2　落下・転倒防止ワイヤー用ねじをテレビ台などに取り付け、ワイヤーで金具と結ぶ

- ワイヤーのたるみが少なくなるようにしてください。
- テレビや壁に対して本体を立て掛けないでください。

- 落下・転倒防止ワイヤー用ねじを取り付ける場所は 26 kg 以上の質量を支えられる強度が必要です。施工業者の方などにご相談ください。
- 本体をお使いになる環境により、落下・転倒防止ワイヤー用ねじを取り付ける場所は異なります。

## 壁掛けする場合　ー必ず工事専門業者にご依頼くださいー

本体は同梱品の壁掛け金具などを使用して、壁掛けすることができます。取り付ける壁およびねじには 26 kg 以上の質量を支えられる強度が必要です。
壁取り付けねじなどの準備する市販品は、本体を取り付ける壁の構造や材質に合ったものをお選びください。

- 壁取り付けねじについて、詳しくは手順 3 を参照してください。
- 本体をより安全に使用するために、必ず落下・転倒防止ワイヤーを取り付けてください。

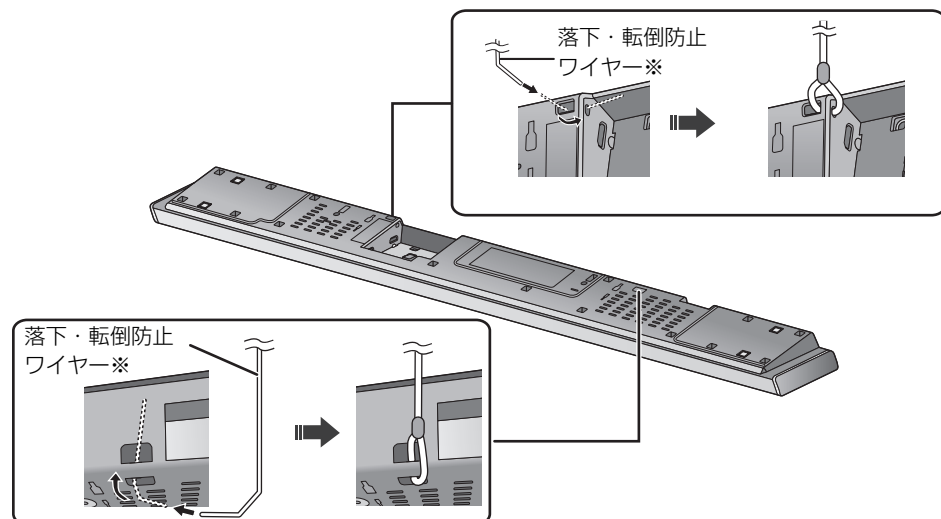
**準備する同梱品**

| □ ねじ（2 本） | □ 壁掛け金具 （2個） |
|---|---|

**準備する市販品**

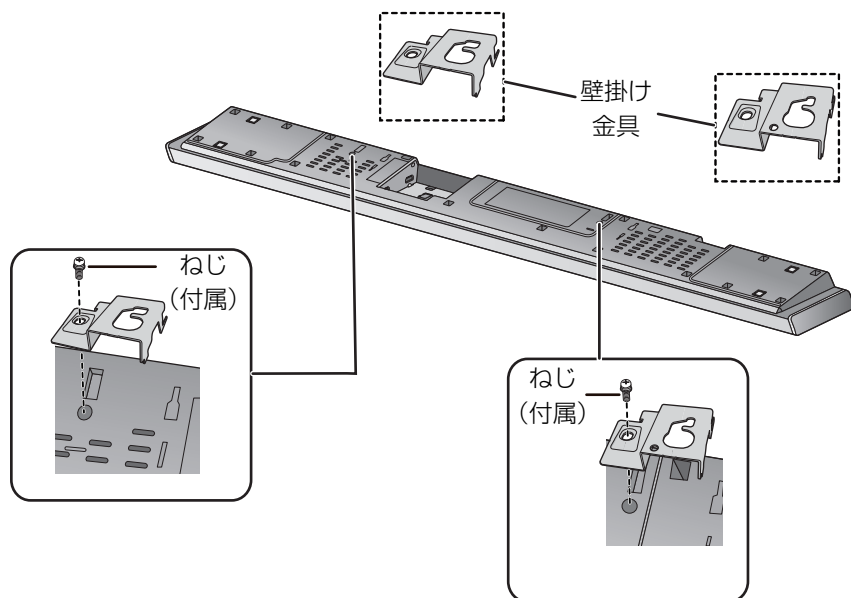
| 壁取り付けねじ（2本） | 落下・転倒防止ワイヤー（2本）<br>（直径約 1.5 mm） | 落下・転倒防止ワイヤー用ねじ（2本） |
|---|---|---|

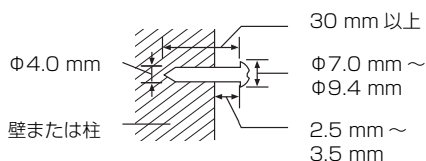
**お知らせ**

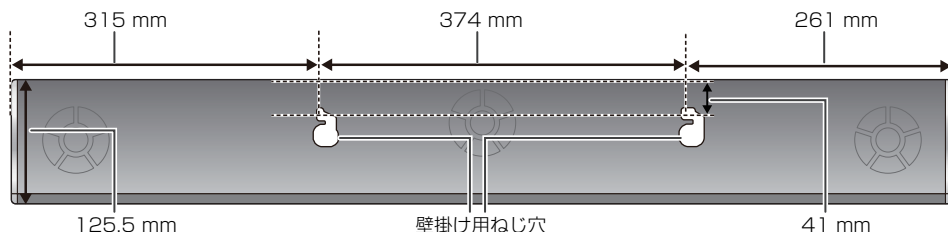
- 落下・転倒防止ワイヤーは 26 kg 以上の質量を支えられる強度が必要です。
- 取り付け作業は、柔らかい毛布や布などの上で行ってください。

### 1 本体に落下・転倒防止ワイヤーを取り付ける

※ 落下･転倒防止ワイヤーが穴に通しにくい場合は、上のイラストのようにワイヤーの先端から約5 mm 間隔で2か所を約45° に曲げてください。

準備する

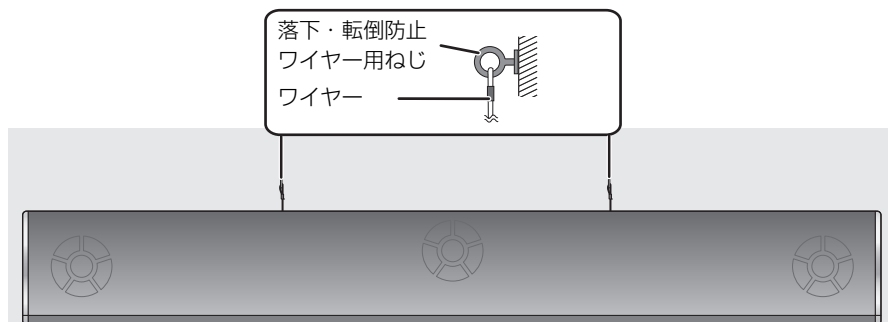
## 2　本体に壁掛け金具を取り付ける

## 3　壁にねじ（市販品）を取り付ける

- 下記の寸法を参照して、壁にねじを取り付ける位置を決めてください。
- 本体の取り付け作業を行う際は、本体の上と左右に 100 mm 以上のスペースを空けてください。
- 正面から見て本体の右端には 50 mm 以上のスペースを空けてください。十分なスペースがないと、本体右端のタッチキー操作ができなくなります。
- 壁取り付け穴が水平になる位置にしてください。

- 取り付ける壁およびねじには、26 kg 以上の質量を支えられる強度が必要です。施工業者の方などにご相談ください。

**本体前面（半透明図）**

## 4　本体の壁掛け用ねじ穴が壁に取り付けたねじにしっかりはまるように、固定する

| ○  | ● ねじがこの位置になるように、本体を動かしてください。 | ×  | ● ねじがこの位置だと、本体が左右に動いたとき、落下する可能性があります。 |
|---|---|---|---|

## 5　落下・転倒防止ワイヤー用ねじを壁に取り付け、ワイヤーで金具と結ぶ

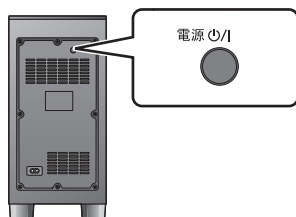
● ワイヤーのたるみが少なくなるようにしてください。

準備する

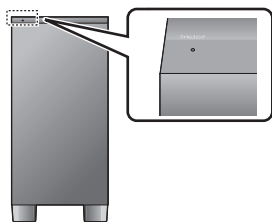
# 準備 3　無線接続する

## アクティブサブウーハーの ワイヤレスリンクを確認する

**準備する**

本体の電源を入れる。

**1　アクティブサブウーハーの電源を入れる**

アクティブサブウーハーは電源を切った状態でも微量の電力を消費しています。

**2　ワイヤレスリンクランプが点灯しているのを確認する**

| | |
|---|---|
| **赤色に点灯** | 使用できません。<br>（リンクが無効です）<br>もう一度アクティブサブウーハーの電源を「切/入」してください。 |
| **緑色に点灯** | 使用可能です。<br>（リンクが有効です） |
| **緑色に点滅** | アクティブサブウーハーと本体が無線接続中です。 |

**お知らせ**

本体とアクティブサブウーハーの電源が「入」のとき、ワイヤレスリンクが有効になります。

## Bluetooth® を使って接続する

本機は Bluetooth®（ブルートゥース）技術を使用していますので、スマートフォンなどの Bluetooth® 機器の音楽をワイヤレスで楽しむことができます。

- Bluetooth® 機器に付属されている説明書などもお読みください。

**準備する**

- 本機と Bluetooth® 機器の電源を入れ、Bluetooth® 機器を本機に近づける。
- Bluetooth® 機器の Bluetooth® 機能を有効にする。

### Bluetooth® 機器を登録する

**1　[ Bluetooth - ペアリング ] を押して「BLUETOOTH」を選ぶ**

- 「PAIRING」と表示された場合、手順 3 に進んでください。

**2　[ Bluetooth - ペアリング ] を「PAIRING」と表示されるまで押したままにする**

**3　Bluetooth® 機器側で Bluetooth® の接続画面などを開き、機器名 (SC-HTB690) を選んで接続する**

- 機器名が表示される前に MAC アドレス（例：6C:5A:B5:B3:1D:0F）が表示される場合があります。
- パスキーの入力を要求された場合は「 0000 」（ゼロ４つ）を入力してください。
- 本機と Bluetooth® 機器が接続されると、登録された機器名が表示窓に数秒間表示されます。

**お知らせ**

- 本機に登録できる Bluetooth® 機器は最大 8 台です。最大登録数を超えて登録すると、接続した順番が古いものから上書きされるため、Bluetooth® 機器の登録が消去されることがあります。再度、お使いいただくには登録をやり直してください。

### 登録済みの Bluetooth® 機器を接続する

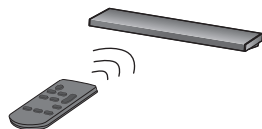
1 [ - ペアリング ] を押して「BLUETOOTH」を選ぶ
2 「BLUETOOTH READY」の表示を確認したあと、Bluetooth® 機器側で Bluetooth® の接続画面などを開き、機器名（SC-HTB690）を選んで接続する

■ 接続を解除するには
[ - ペアリング ] を「BLUETOOTH READY」と表示されるまで押したままにする

お知らせ
- 「BLUETOOTH」を選択すると、本機は最後に接続していた Bluetooth® 機器と接続しようとします。
  接続が途切れた場合は、再度接続し直してください。
- 同時に接続できるBluetooth®機器の台数は1台です。
- Bluetooth® の通信モードを切り換えるには
  (⇨ 26 「LINK MODE」)

# リモコンモードの切り換え

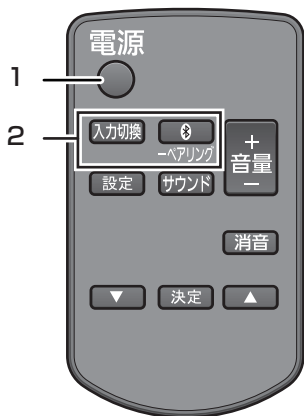
本機のリモコンで、他の当社製オーディオ製品が動作してしまうときは、下記の操作を行い、本機とリモコンを、「リモコンモード 2」または、「リモコンモード 1」に設定してください。

1 他の当社製オーディオ製品の電源を切る
2 本機の電源を入れる
3 リモコンを本機のリモコンセンサーに向ける

■ 「リモコンモード 2」に設定するには
**[ 消音 ] を押しながら [ 決定 ] を 4 秒以上押したままにする**
「REMOTE 2」と表示されます。

■ 「リモコンモード 1」に設定するには
**[ 消音 ] を押しながら [▼] を 4 秒以上押したままにする**
「REMOTE 1」と表示されます。

# テレビや映画、音楽を楽しむ

**準備する**

- アクティブサブウーハーの電源を入れる
- テレビまたは接続機器の電源を入れる

**1　[ 電源 ] を押して、本体の電源を入れる**

**2　[ 入力切換 ] または [ - ペアリング ] を押し、接続している機器を選ぶ**

- [ 入力切換 ] を押すたびに以下の順で入力が切り換わります。
  “TV” ———→ “BD/DVD”
  ↑—“BLUETOOTH”←—┘
- 「BLUETOOTH」に切り換わったあと、続けて「TV」に切り換える場合は、しばらく待ってから [ 入力切換 ] を押してください。

### ■ 「BD/DVD」を選択した場合

テレビの入力を本機が接続されている入力に切り換え、本機に接続している機器で再生の操作を行ってください。

### ■ 「BLUETOOTH」を選択した場合

本機に接続している Bluetooth® 機器で再生の操作を行ってください。

### ■ 音量を調節するには

**[− 音量 +] を押す**

- 調節範囲：0（最小）～ 100（最大）

### ■ 一時的に音を消すには

**[ 消音 ] を押す**

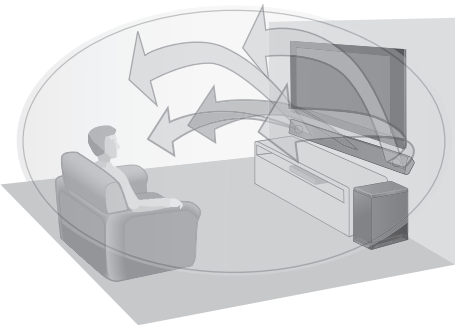
- 消音中は「MUTE」が表示されます。
- もう一度押すと解除されます
- 音量操作や本機の電源操作を行った場合、または電源コードを抜き差しした場合も消音は解除されます。

**お知らせ**

- 設定や動作がわからなくなった場合は、一度お買い上げ時の状態に戻してください (⇨ 30)
- テレビのスピーカーからも音が出ている場合があります。その場合は、テレビの音量を最小にしてください。
- テレビと本機の音量の最大値が異なる場合があります。
- HDMI 映像・音声入力端子に接続した機器を再生中に、映像・音声をテレビに切り換えるときは、テレビの入力をテレビチューナーに切り換えてください。ビエラリンク（HDMI）(⇨ 28) が有効でない場合は、本機の入力もテレビに切り換えてください。

# 3D サウンド再生

本機では、映像と一体になった臨場感あふれる音場を楽しむことができます。
お買い上げ時の設定では、すべての入力音声に対し、3D サウンドの効果が働きます。

**(3D サウンド再生のイメージ図)**

| ドルビーバーチャルスピーカー | 後方にスピーカーを設置しなくても、5.1 チャンネルのようなサラウンド効果を得ることができます。 |
|---|---|
| 3D サラウンド効果 | ドルビーバーチャルスピーカーに加え、上下 / 前後方向の音場を広げ、3D 映像にもマッチした奥行感や迫力のある音を実現しています。 |
| 明瞭ボイス効果 | テレビ画面の方向からドラマのセリフやスポーツ中継の解説などの音声が聴こえるため、映像と一体感のある音が楽しめます。また、通常の音量時だけではなく、周囲への騒音が気になる夜間などの小音量時でも、セリフの聴き取りやすさを失わずに音声を楽しむことができます。 |

### お知らせ

- 「SOUND MODE」(⇨ 24) が「STEREO」のときを除いて、ドルビーバーチャルスピーカーは「入」になっています。
- ドルビーバーチャルスピーカーと 3D サラウンド効果については、「SOUND MODE」(⇨ 24) を変更することで、効果を変えたり「切 / 入」することもできます。
- 3D サラウンド効果および明瞭ボイス効果を「切」にし、ドルビーバーチャルスピーカーのみ適応させることができます。(⇨ 25)
- 明瞭ボイス効果は効果のレベルを調節することができます。(⇨ 24)

# 音声設定

**1 [ サウンド ] を数回押して音声効果を選ぶ**

**2 [▼][▲] を押してお好みの設定を選び、[ 決定 ] を押す**

- 下線部はお買い上げ時の設定です。
- 設定は再度切り換えるまで保持されます。

| | |
|---|---|
| SOUND MODE | テレビ番組や接続された機器からの映像に適した音場効果を楽しむことができます。<br>● ビエラリンク（HDMI）Ver.3 以降に対応の当社製テレビ（ビエラ）をお使いの場合は、設定を自動で切り換えることができます。(⇨ 28)<br>**STANDARD**※<br>ドラマやバラエティなどに適しているモードです。<br>**STADIUM**<br>スポーツ中継などを臨場感のある音で楽しめます。<br>**MUSIC**<br>楽器や歌を広がりのある音で楽しめます。<br>**CINEMA**<br>映画ならではの立体感や迫力のある音を楽しめます。<br>**NEWS**※<br>解説や実況などが聞き取りやすくなります。<br>**STEREO**<br>ドルビーバーチャルスピーカーと 3D サラウンド効果が無効になり、すべての音声がステレオ出力になります。<br>※ 「SOUND MODE」が「STANDARD」または「NEWS」のときは、本機の消費電力が抑えられます。(⇨ 27) |
| SUBWOOFER | 低音の音量を調節することができます。<br>本機は音源によって自動的に適している設定を選択します。<br>**LEVEL 1**<br>**LEVEL 2**<br>2 チャンネル音源の初期設定<br>**LEVEL 3**<br>マルチチャンネル音源の初期設定<br>**LEVEL 4**<br>● 2 チャンネル音源、マルチチャンネル音源の設定は別々に保持されます。 |
| MEIRYOU VOICE | 人の声をより強調して聴き取りたい場合などに、明瞭ボイス効果のレベルを変更することができます。<br>**LEVEL 1**<br>**LEVEL 2**<br>**LEVEL 3**<br>**LEVEL 4**<br>● 「3D CLR DIALOG」を「OFF」に設定している場合 (⇨ 25) は、「MEIRYOU VOICE」は表示されません。 |
| H.BASS | 重低音の効果を楽しむことができる機能です。<br>**ON**<br>有効<br>**OFF**<br>無効 |

| | |
|---|---|
| 3D CLR DIALOG | ３ D サラウンド効果と明瞭ボイス効果が合わさった機能です。<br>ON<br>3D サラウンド効果、明瞭ボイス効果およびドルビーバーチャルスピーカーの効果で楽しむことができます。<br>OFF<br>ドルビーバーチャルスピーカーの効果のみで楽しむことができます。<br>● 電源を切 / 入すると、「ON」の状態に戻ります。 |
| DUAL AUDIO | 下記の操作で二重音声放送の主音声、副音声を切り換えることができます。<br>● テレビ / レコーダーの音声出力がビットストリーム（AAC）に設定されていることを確認してください。（⇨ 右記 ）<br>MAIN<br>主音声<br>SUB<br>副音声<br>MAIN ＋ SUB<br>主音声と副音声 |
| AGC | 入力信号があるレベル以上になると、出力を下げ、急激な音量差を抑える機能です。（音量オート機能）この機能は音量変化の大きい番組などに有効です。<br>● 音声が聴き取りにくく感じられるような場合には、「OFF」に設定してください。<br>ON<br>有効<br>OFF<br>無効 |
| LOW VOL MODE | 小音量時にさらに声を聴き取りやすくする機能です。（小音量モード）<br>● 違和感などがある場合には、「OFF」に設定してください。<br>ON<br>有効<br>OFF<br>無効 |

## 音声信号を確認するには

下記の操作で本機が接続先の機器から受信している音声信号を確認することができます。

**[ サウンド ] を 4 秒以上押したままにする**

| | |
|---|---|
| DOLBY DIGITAL | 音声信号がドルビーデジタル |
| DTS | 音声信号が DTS® |
| PCM MULTI | 音声信号が PCM マルチ |
| PCM | 音声信号が PCM |
| AAC | 音声信号が AAC |

- 各音声信号は約 2 秒間表示されます。
- 本機の入力が Bluetooth® のときは、音声信号が表示されません。

# 必要に応じて設定する

**1　[ 設定 ] を数回押して設定項目を選ぶ**
**2　[▼][▲] を押してお好みの設定を選び、[ 決定 ] を押す**

- 下線部はお買い上げ時の設定です。
- 設定は再度切り換えるまで保持されます。

| | |
|---|---|
| DIMMER | 一定時間無操作状態が続くと自動的に表示窓の光を抑える機能です。<br>ON<br>有効<br>OFF<br>無効 |
| BEEP | 本体のタッチキー操作時や電源切 / 入時に操作音が鳴ります。<br>● 消音時にも働きます。<br>ON<br>有効<br>OFF<br>無効 |
| AUTO POWER DOWN | 入力信号がない状態で約 2 時間以上操作をしなかった場合に、自動的に本機の電源を切る機能です。<br>ON<br>有効<br>OFF<br>無効<br>● 設定時に「P.OFF 1」が表示された場合、約 1 分後に電源が切れます。 |
| VOL LIMITATION | 過大出力を制限する「音量制限機能」です。この機能を使うと、電源「切」時に 50 を超えた音量になっていた場合は、次回電源「入」時には音量が 50 に設定されます。<br>ON<br>有効<br>OFF<br>無効 |

| | |
|---|---|
| BLUETOOTH STANDBY | この機能を有効にしているとき、登録済みの Bluetooth® 機器から Bluetooth® 接続すると、自動的に本機の電源が入るようになります。<br>ON<br>有効<br>OFF<br>無効<br>● 設定を有効にすると待機時消費電力が増えます。 |
| LINK MODE | Bluetooth® の通信モードを切り換えることができます。「BLUETOOTH」を選択し、Bluetooth® 機器の接続を切ってください。<br>(「BLUETOOTH READY」が表示されている場合に、設定することができます)<br>MODE 1<br>接続性重視<br>MODE 2<br>音質重視 |
| VIERA LINK | 他社製 HDMI 対応機器との接続時に動作が不安定になる場合などに、ビエラリンク（HDMI）を使わない設定にできます。(⇨ 28)<br>● 設定変更後に、接続しているすべての機器の電源を「切/入」してください。<br>ON<br>有効<br>OFF<br>無効<br>● ビエラリンク（HDMI）を使わない設定にすると、ARCの機能が働かなくなります。必ず光デジタルケーブルを接続してください。(⇨ 11) |

## エコ機能

本機には、下記のような消費電力を抑えるエコ機能があります。

- 「SOUND MODE」が「STANDARD」または「NEWS」のときは、本機の消費電力が抑えられます。(⇒ 24)
- **ボリューム連動しっかりエコ**
  音量を小さくした場合も、消費電力を下げることができます。
- **番組連動おまかせエコ**
  ビエラリンクをお使いの場合は、番組ぴったりサウンド (⇒ 29) と連動し、比較的音量変化の少ない番組（ドラマ、バラエティ、ニュースなど）の視聴時に自動的に消費電力を抑えます。
  （ビエラリンク（HDMI）Ver.3 以降に対応の当社製テレビ（ビエラ）が必要です。）

**■　エコ機能を使わないよう設定するには**

**リモコンの [ 消音 ] と本体の [ 音量 −] を 4 秒以上押したままにする**

「OFF ECO」が表示されます。

- 有効にする場合は同じ操作を繰り返してください。（「ON ECO」が表示されます。）
- 操作後、約 2 秒で通常の表示に戻ります。
- エコ機能を無効の状態に設定すると、本機の電源を「切/入」しても、無効の設定は保持されます。

# ビエラリンク（HDMI）を使う

**ビエラリンク（HDMI）（HDAVI Control™）とは**

本機とHDMIケーブル（付属または別売）を使って接続したビエラリンク対応機器を自動的に連動させて、リモコン１つで簡単に操作できる機能です。各機器の詳しい操作については、それぞれの説明書をご覧ください。

- すべての操作ができるものではありません。

**お知らせ**

- ビエラリンク（HDMI）は、HDMI CEC (Consumer Electronics Control) と呼ばれる業界標準のHDMIによるコントロール機能をベースに、当社独自機能を追加したものです。
- 本機はビエラリンク（HDMI）Ver.5に対応しています。ビエラリンク（HDMI）Ver.5とは、従来の当社製ビエラリンク機器にも対応した当社基準です。
- お使いのテレビがビエラリンク（HDMI）対応か分からないときは、機器にビエラリンク（HDMI）のロゴマーク (⇨ 表紙 ) が付いているかをお確かめになるか、それぞれの説明書をご覧ください。

## 準備する

**1　本機とビエラリンク（HDMI）に対応した当社製テレビ（ビエラ）とレコーダー（ディーガ）をHDMIケーブルで接続する (⇨ 10 ～ 11)**

- HDMI規格に準拠していないケーブルでは動作しません。

**2　テレビ（ビエラ）以外のすべての機器の電源を入れ、最後にテレビの電源を入れる**

**3　テレビ（ビエラ）の設定を以下のように変更する（機器によって表示が異なる場合があります）**

①　音声をシアターから出す設定に切り換える

（操作の一例）ビエラリンクボタンを押し、「音声を切り換える」→「シアター」を選ぶ

②　「サウンド」を「オート」にする

（操作の一例）ビエラリンクボタンを押し、「シアターサウンドを切り換える」を選び、「サウンド」を「オート」にする

- お使いのテレビ（ビエラ）によっては、音声出力の設定も切り換えてください。
（操作の一例）メニュー画面より「設定する」→「初期設定」→「接続機器関連設定」→「ビエラリンク (HDMI) 設定」→「電源オン時の音声出力」と進み、「シアター」を選ぶ
- テレビ（ビエラ）によって操作は異なります。詳しくはテレビ（ビエラ）の取扱説明書、電子説明書をご覧ください。
- 「サウンド」を「オート」に設定できるのは、ビエラリンク（HDMI）Ver.3以降に対応のテレビ（ビエラ）のみです。

HDMI入力端子に機器を接続している場合は、下記４、５も行ってください。

**4　テレビ（ビエラ）の入力を切り換え、本機を接続したHDMI入力を選ぶ**

**5　HDMI映像・音声入力端子に接続した機器の再生を開始し、本機の入力を「BD/DVD」に切り換え、画像が正しく映ることを確認する**

**お知らせ**

- 各機器がビエラリンク（HDMI）を有効にする設定になっているか確認してください。
- 機器を追加したときや接続し直したとき、工場出荷設定に戻したとき (⇨ 30) にも上記の操作を行ってください。

## ビエラリンク（HDMI）でできること

**テレビ（ビエラ）のリモコンで行う操作です**
**必ず 28 ページの「準備する」を先に行ってください**

- **テレビ（ビエラ）によって操作は異なります。詳しくはテレビ（ビエラ）の取扱説明書、電子説明書をご覧ください。**

### 本機の電源を自動で「切 / 入」する

本機から音声が出ている状態でテレビ（ビエラ）の電源を「切」にすると、本機の電源も切れます。
次回テレビ（ビエラ）の電源を「入」にすると、本機の電源も入ります。

- テレビ ( ビエラ ) の電源を「入」にしたあと、本機から音声が出るまでに 最大 8 秒かかることがあります。光デジタルケーブルを使用すると音声が出るまでの時間を短くすることができます。テレビ ( ビエラ ) の HDMI 端子は ARC 非対応の端子に接続し直してください。(⇒ 11)
- お使いのテレビ（ビエラ）によっては、「電源オン時の音声出力」を「テレビ」に設定している場合、テレビ（ビエラ）の電源を「入」にしても本機の電源は入りません。

### テレビ（ビエラ）から音声を出すか、本機から音声を出すかを切り換える

テレビ（ビエラ）から音声を出すときは、テレビ（ビエラ）で「音声をテレビから出す」を選択します。

- ビエラリンク（HDMI）Ver.4 以降に対応の当社製テレビ（ビエラ）と組み合わせる場合は、テレビから音声を出すように切り換えたとき、自動的に本機の電源を切る設定もできます。**（こまめにオフ機能）**

本機から音声を出すときは、テレビ（ビエラ）で「音声をシアターから出す」を選択します。

### 本機の音量調節、消音をする

テレビ（ビエラ）のリモコンで本機の音量調節、消音ができます。

- 音量表示は、ビエラリンク（HDMI）Ver.5 以降に対応の当社製テレビ（ビエラ）で表示されます。

### サウンドモードを自動で切り換える（番組ぴったりサウンド）

ビエラリンク（HDMI）対応の接続機器でデジタル放送の番組を視聴または再生中、DVD、CD、SD などを再生中に、そのソースサウンドを自動で切り換えることができます。この機能を使うには、テレビ（ビエラ）の「サウンド」を「オート」にしてください。(⇒ 28)

- Bluetooth® を聴いているときにテレビ ( ビエラ ) のサウンドモードが切り換わる、またはチャンネル操作をすると本機に SOUND MODE(⇒ 24) が表示され、一瞬音声が途切れる場合があります。
- 手動でテレビ（ビエラ）の「サウンド」を変更して、本機のサウンド効果を連動して切り換えることもできます。
- テレビ（ビエラ）の「サウンド」が切り換わると、本体のサウンドモードも切り換わります。
- 番組ぴったりサウンドは、ビエラリンク（HDMI）Ver.3 以降に対応の当社製テレビ（ビエラ）で動作します。
- 接続した機器側で、自動的にサウンドを切り換えるかどうかの設定ができます。詳しくは、各機器の説明書をご覧ください。

### 番組のジャンルに合わせて消費電力を抑える（番組連動おまかせエコ）

音量の変化が少ない番組（ドラマ、バラエティ、ニュースなど）の視聴時、自動的に消費電力を抑えます。

- 番組連動おまかせエコは、ビエラリンク（HDMI）Ver.3 以降に対応の当社製テレビ（ビエラ）で動作します。

### 本機の入力を自動で切り換える

テレビ（ビエラ）のリモコンでチャンネル選択などの操作を行うと、本機の入力はテレビになります。
HDMI 映像・音声入力端子に接続した機器で再生などの操作を行うと、本機の入力は「BD/DVD」になります。

**お知らせ**

- ビエラリンク（HDMI）対応のレコーダー（ディーガ）も接続している場合、テレビ（ビエラ）の電源をリモコンで切ると、レコーダー（ディーガ）の電源も自動的に「切」になります。
- ビエラリンク（HDMI）Ver.4 以降に対応の当社製テレビ（ビエラ）との組み合わせの場合は、本機の電源を入れると、テレビ（ビエラ）が「音声をシアターから出す」設定になります。
- ビエラリンク（HDMI）Ver.3 以降に対応している当社製テレビ（ビエラ）と接続時に、映像が音声よりも遅れている場合に、自動的に音声を遅らせて映像に近づけます。（オートリップシンク）
ビエラリンク (HDMI)Ver.2 以前の当社製テレビ ( ビエラ )、または当社製以外のテレビを接続している場合は、音声を約 0.04 秒遅らせる設定になります。

楽しむ

# 故障かな！？

**故障かな？と思ったら以下の項目を確かめてください。それでも直らないときや、症状が載っていないときは販売店にご相談ください。**

**本機の設定をお買い上げ時の状態（工場出荷設定）に戻すには**

- **本機の動作がおかしいと思われる場合、一度お買い上げ時の状態に戻すと、症状が改善されることがあります。**

① 電源「入」の状態で、本体の [ 電源 ⏻/I] を4 秒以上押したままにする。
「RESET」が表示されます。

② 電源を切り、再度電源を入れる。
- お買い上げ時の設定に戻ります。
- 本機のリモコンモードが「1」に設定されます。必要に応じてリモコンモードを再設定してください。
(⇨ 21)

## 共通

**電源が入らない。**

- 電源プラグを接続し直すときは、時間を約10 秒間あけてください。
- 電源を入れてもすぐに電源が切れてしまう場合は、電源プラグを抜き、販売店にご相談ください。
- テレビ（ビエラ）のビエラリンク（HDMI）で本機の電源が入らないときは、手動で本機の電源を入れてください。問題が解決しない場合は、「故障かな！？」の「HDMI」を参照してください。

**リモコンが働かない。**

- 電池が消耗している場合は電池を交換してください。(⇨ 9)
- 絶縁シートを抜いてください。(⇨ 9)
- 電池を交換後、リモコンモードの再設定が必要な場合があります。(⇨ 21)
- リモコンが正しく働く範囲でお使いください。(⇨ 9)

**本機のリモコンで、他の当社製オーディオ製品が動作してしまう。**

- 本機とリモコンを、「リモコンモード 2」に設定してください。(⇨ 21)

**本機の電源が自動的に切れてしまった。**

- 本機には、入力信号がなく、無操作状態が約 2 時間続くと、自動的に電源を切る機能があります。(AUTO POWER DOWN）この機能を使わない設定にできます。(⇨ 26)

**テレビから音声を出す設定にすると、本機の電源が切れてしまった。**

- ビエラリンク (HDMI) Ver.4 以降に対応の当社製テレビ（ビエラ）と組み合わせると、こまめにオフ機能が働く場合があります。(⇨ 29)

**本体のタッチキーが働かない。**

- 本体の [ 電源 ⏻/I]、[ 音量－ ]、[ 音量 +]、[ 入力切換 ]、[ Bluetooth - ペアリング ] は、タッチ方式を採用しているため、指で軽く触れてください。爪の先で押したり、手袋をはめた状態で押すと、反応しない場合があります。

**ブラウン管テレビに色ムラが生じる**

- テレビに色ムラが生じる場合は、テレビの電源を約 30 分間切ってテレビの位置を少しずらしてみてください。それでも直らない場合は、本機をテレビと離して設置してください。

## HDMI

**正常に動作しない。**

- HDMI の入力端子と出力端子を間違えて接続していませんか。電源を切り、電源プラグを抜いてから接続し直してください。(⇨ 10、11)

**ビエラリンク（HDMI）が働かなくなった。**

- 接続した機器のビエラリンク（HDMI）設定を確かめてください。
  – 接続している機器のビエラリンク（HDMI）の効果を有効にする。

– テレビ（ビエラ）のビエラリンク（HDMI）で本機から音声を出す設定を選ぶ。
- ビエラリンク（HDMI）の効果を切っていませんか。(⇨ 26)
- HDMI 機器の接続変更、停電、コンセントの抜き差しが原因の可能性があります。以下を試してみてください。
  – HDMI ケーブルで接続したすべての機器の電源を入れた状態で、テレビ（ビエラ）の電源を入れ直す。
  – テレビ（ビエラ）のビエラリンク（HDMI）の設定を一度「切」にしたあと、再度入れ直す。詳しくはテレビ（ビエラ）の取扱説明書、電子説明書をご覧ください。
  – テレビ（ビエラ）と本機を HDMI ケーブルで接続してテレビ（ビエラ）の電源を入れ、そのまま本機の電源プラグを一度抜いてから接続し直す。

---

**HDMI 接続で、始めの数秒間の音声が再生されない。**

- DVDをチャプターから再生した場合に起こることがあります。接続した映像機器のデジタル音声出力の設定をビットストリーム設定から PCM設定にしてください。

---

**他社製 HDMI 対応機器（テレビやブルーレイディスクレコーダーなど）との接続時に、動作が不安定になる。**

- ビエラリンク（HDMI）を使わない設定にしてください。(⇨ 26)

---

**本機の電源を「切 / 入」すると、音声と映像が一時的に途切れる。**

- 本機の電源を「切 / 入」すると音声と映像が一時的に途切れますが、故障ではありません。この現象は接続している機器が、ビエラリンク（HDMI）Ver.3 以降に対応していない場合に起こることがあります。

---

**本機を通過してテレビへ伝送された映像が出ない。**

- 60p (4K) の映像を出力するとき、HDMI ケーブルによっては映像が乱れることがあります。18 Gbps 対応のハイスピード HDMI ケーブルを使用してください。

## Bluetooth®

**Bluetooth® 機器が登録できない。**

- Bluetooth® 機器の状態を確かめてください。

---

**Bluetooth® 機器と無線接続されない。**

- Bluetooth® 機器が登録されていないか、Bluetooth® 機器から本機の登録情報が消去された可能性があります。登録をやり直してください。(⇨ 20、21)
- 本機が他の Bluetooth® 機器と接続されていませんか。他の Bluetooth® 機器との接続を解除し、再度ペアリングをしてください。

---

**Bluetooth® 機器と接続されているが、本機から音が出ない。**

- お使いの Bluetooth® 機器によっては音声出力を本機に設定しないと音が出ません。Bluetooth® 機器に付属されている説明書などをお読みください。

---

**接続が解除される**
**音が途切れる / 音が飛ぶ / 雑音が多い。**

- Bluetooth® 機器と本機の間に障害物がありませんか。障害物を避けてください。
- 他の 2.4 GHz 帯の周波数帯を使用している機器（電子レンジ / ワイヤレス LAN / デジタルコードレス電話など）が電波干渉している可能性があります。Bluetooth® 機器と本機を近づけ、他の干渉機器を遠ざけてください。
- 本機の通信モードを「MODE 1」に設定してみてください。(⇨ 26)

上記の操作を行っても問題が解決しない場合は、本機と Bluetooth® 機器を再度接続し直してください。(⇨ 20、21)

---

## 音声

**機器の再生を始めても音 ( または映像 ) が出ない。**

- 「消音」になっている場合、消音を解除してください。
- 機器が正しく接続されていますか。(⇨ 10、11)
- 本機で再生できるデジタル信号か確認してください。(⇨ 35)
- 本機の電源を「切 / 入」してください。
- テレビと HDMI 接続をしている場合は、テレビの HDMI 端子に「ARC 対応」と表示されているか確認してください。表示がない場合は、HDMI ケーブルに加えて光デジタルケーブルを接続してください。(⇨ 10、11)
- 当社製テレビ（ビエラ）を接続している場合、本機で電源を入れると、本機から音が出ない場合があります。ビエラリンクを使用し、テレビ（ビエラ）のリモコンによる電源操作を行ってください。(⇨ 29)
- 接続経路に問題がない場合、ケーブルの異常かもしれません。お手持ちの他のケーブルで、再度接続を試みてください。
- 入力信号を正しく選択してください。

---

**デジタル放送で二重音声放送の切り換えができない。**

- テレビ / レコーダーの音声出力がビットストリーム（AAC）に設定されているか確認してください。(⇨ 25)

---

**50 を超えた音量にして電源を切ると、次回電源を入れたとき音量が 50 になってしまう。**

- 本機には、過大出力を制限する機能があります。（VOL LIMITATION）この機能を使わない設定にできます。(⇨ 26)

---

**小音量時に声が強調されすぎたり、声の質に違和感があったりする。**

- 本機には、小音量時にさらに声を聴き取りやすくする機能があります。（LOW VOL MODE）違和感などがある場合には、この機能を使わない設定にできます。(⇨ 25)

---

**音が出なくなった。電源が勝手に切れる。（本機は異常を検出すると、保護回路が働いて電源を自動的に切ります）**

- アンプの出力異常です。音量を下げ、電源の「切 / 入」をしてみてください。
- 著しく大きな音で聴いていませんか。または異常に暑い場所で使用していませんか。
  ⇒ 音量を下げるなどして原因を解消し、しばらく待ってから再び電源を入れてください。
  （保護回路の動作が解除されます）

それでも同じ現象が起こる場合は、電源を切り、電源プラグを抜いたあと、販売店にご相談ください。表示が出ているときは、表示内容をお知らせください。

---

**地上デジタル/BS放送の番組で始めの数秒間の音声が再生されない。**

- テレビ（ビエラ）の「デジタル音声出力」を「PCM」または「AAC」に変更してみてください。詳しくはテレビ（ビエラ）の取扱説明書、電子説明書をご覧ください。

## 本体画面表示

「F61」
- 本システムのアンプに異常が発生しました。
- 電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店にご相談ください。

「F70 HDMI」「U701」「U703」
- 接続した機器のビエラリンク（HDMI）設定を確かめてください。
- 電源を切ったあと、電源プラグを抜き差しして、再度電源を入れてください。
- 接続をやり直してください。(⇨ 10 ～ 13)

「F76」
- 電源に異常が発生しました。
- 電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店にご相談ください。

「U704」
- 入力端子から本機が対応していない映像信号を受信しています。
  – 接続機器側で映像の解像度の設定を変更してください。（詳しくは接続機器の説明書をご覧ください。）
  – 映像が出ない場合は、本機に接続している機器を直接テレビに接続して設定を変更してください。

「U705」
- 本体と接続しているテレビの HDMI 端子またはテレビの設定は、HDCP 2.2 再生ソースと互換性がありません。
  – テレビの接続端子が HDCP 2.2 に対応していることを確認してください。
  – テレビのHDMI設定が HDCP 2.2 に対応していることを確認します。（テレビの取扱説明書をご覧ください。）

**「REMOTE □」（□ は番号）**
リモコンモードの設定が本機と合っていません。リモコンコードを切り換えてください。(⇨ 21)

## アクティブサブウーハー

**アクティブサブウーハーの音が出ない。**
- ワイヤレスリンクランプが緑色に点灯しているか確認してください。(⇨ 20)

**ワイヤレスリンクランプが赤色に点灯する。**
- アクティブサブウーハーが本体と無線接続していません。以下を試してみてください。
  – 本体の電源を「切 / 入」する
  – アクティブサブウーハーの電源を「切 / 入」する
  – アクティブサブウーハーの電源を切ったあと、電源コードを抜き差しする
- アクティブサブウーハーが本体と正しくペアリングされていない可能性があります。以下の処置をしてください。
  ① 本体とアクティブサブウーハーの電源を「切 / 入」する
  ② アクティブサブウーハー後面の [I/D SET] を３秒以上押す
  (ワイヤレスリンクランプが赤色に点滅します)
  ③ リモコンの[入力切換]と本体の[音量+]を 4 秒以上押す
  (「SUBWOOFER PAIRING」と表示されます)
  - ペアリングが成功すると、「PAIRED」と表示され、ワイヤレスリンクランプが緑色に点灯します。
  ④ 本体の電源を「切 / 入」する

それでも症状が改善されない場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

# 仕様

## アンプ部

**実用最大出力合計値**
350 W（非同時駆動、JEITA）

**実用最大出力（非同時駆動、JEITA）**

**フロント (L/R)**
70 W+70 W
（1 kHz、6 Ω、全高調波ひずみ率 10%）

**センター**
70 W
（1 kHz、6 Ω、全高調波ひずみ率 10%）

**サブウーハー**
140 W
（100 Hz、3 Ω、全高調波ひずみ率 10%）

## 入出力端子

**HDMI**
本システムは、ビエラリンク Ver.5 に対応しています。

**HDMI 映像・音声入力（BD/DVD）**
1

**コネクタ**
19 ピン Type A 端子

**HDMI 映像・音声出力 [テレビ（ARC 対応）]**
1

**コネクタ**
19 ピン Type A 端子

**デジタル音声入力（テレビ）**

**光デジタル入力**
1

**サンプリング周波数**
32 kHz、44.1 kHz、48 kHz
88.2 kHz、96 kHz（リニア PCM のみ）

**音声フォーマット**
リニア PCM、Dolby Digital、DTS Digital Surround™、AAC

**Ir システム**
∅3.5 mm 端子

**USB 端子**
サービス専用

## 総合

**消費電力**

**本体**
約 44 W

**アクティブサブウーハー**
約 27 W

**電源スタンバイ時の消費電力**
**（すべての接続機器の電源「切」時）**

**本体**
約 0.4 W

**アクティブサブウーハー**
約 0.4 W

**電源**

**本体**
AC100 V、50/60 Hz

**アクティブサブウーハー**
AC100 V、50/60 Hz

**寸法（幅×高さ×奥行）**

**本体**

**テーブル置き時**
950 mm×55 mm×120 mm

**壁掛け時**
950 mm×125.5 mm×57.2 mm

**アクティブサブウーハー**
180 mm×378 mm×303 mm

**質量**

**本体**

**テーブル置き時**
約 2.5 kg

**壁掛け時**
約 2.5 kg

**アクティブサブウーハー**
約 4.7 kg

### 動作使用条件

**周囲温度**

0 ℃－ 40 ℃

**相対湿度**

20 %－ 80 % RH（結露なきこと）

### スピーカー部

**フロントスピーカー (L/R)**

**フルレンジ**

6.5 cm コーン型 ×1/ch

**センタースピーカー**

**フルレンジ**

6.5 cm コーン型 ×1

**アクティブサブウーハー**

**ウーハー**

16 cm コーン型 ×1

### ワイヤレス部

**周波数範囲**

2.40335 GHz ～ 2.47735 GHz

**チャンネル数**

38

### Bluetooth® 部

**バージョン**

Bluetooth® Ver. 2.1+EDR

**送信出力**

Class 2

**対応プロファイル**

A2DP

**通信方式**

2.4 GHz band FH-SS

**見通し通信距離**

約 10 m※1

**対応コーデック**

SBC

- この仕様は、性能向上のために変更することがあります。
- 質量と寸法は概算値です。

※1 温度 25 ℃、高さ 1 m の条件で測定

# 本機で再生できるデジタル信号

■ 音声信号

| 信号 | 用途 |
|---|---|
| AAC | 地上デジタル放送やBS 放送など |
| ドルビーデジタル | ブルーレイディスクやDVD など |
| DTS® | ブルーレイディスクやDVD など |
| LPCM（2 チャンネル） | CD や DVD オーディオなど |
| LPCM（マルチチャンネル） | ブルーレイディスクやDVD オーディオなど |

困ったときは？他

# お手入れ

電源プラグをコンセントから抜き、乾いた柔らかい布でふいてください。

- 汚れがひどいときは、水にひたした布をかたく絞ってから汚れをふき取り、そのあと、乾いた柔らかい布で軽くふいてください。
- ベンジン、シンナー、アルコール、台所洗剤などの溶剤は、外装ケースが変質したり、塗装がはげるおそれがありますので、使用しないでください。
- 化学雑巾をご使用の際は、その注意書きに従ってください。

■ **廃棄 / 譲渡するとき**

本機にはお客様の操作に関する情報が記録されています。廃棄や譲渡などで本機を手放される場合は、お買い上げ時の設定に戻して、記録された情報を必ず消去してください。
(⇨ 30,「本機の設定をお買い上げ時の状態（工場出荷設定）に戻すには」)

- 本機に記録される個人情報に関しては、お客様の責任で管理してください。
- 本機を廃棄する場合は、地方自治体の条例に従ってください。

# 著作権など

| |
|---|
| ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic 及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。 |
| DTS の特許については、http://patents.dts.com をご参照ください。DTS Licensing Limited からの実施権に基づき製造されています。DTS、シンボルマークおよび DTS とシンボルマークとの複合ロゴは DTS, Inc. の登録商標です。DTS Digital Surround は DTS, Inc. の商標です。© DTS, Inc. 無断複写・転載を禁じます。 |
| HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、米国およびその他の国におけるHDMI Licensing LLC の商標または、登録商標です。 |
| HDAVI Control™ は商標です。 |
| Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、パナソニック株式会社は、これらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。 |
| Google Play、Android は Google Inc. の商標です。 |

# 無線機能使用上のお願い

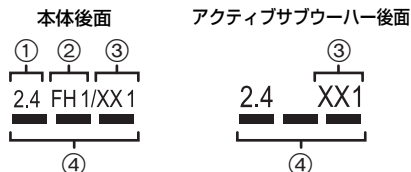
■　使用周波数帯

内蔵無線機器は 2.4 GHz 帯の周波数帯を使用しますが、他の無線機器も同じ周波数を使っていることがあります。他の無線機器との電波干渉を防止するため、下記事項に留意してご使用ください。

■　周波数表示の見方

周波数表示は、定格銘板に記載しています。

**本体後面**　①②③　2.4 FH1/XX1　④

**アクティブサブウーハー後面**　③　2.4 XX1　④

| | |
|---|---|
| ① | 2.4 GHz 帯を使用 |
| ② | 変調方式が FH-SS 方式（Bluetooth®）<br>電波与干渉距離 10 m 以下 |
| ③ | 変調方式がその他の方式<br>（アクティブサブウーハー）<br>電波与干渉距離 10 m 以下 |
| ④ | 2.400 GHz ～ 2.4835 GHz の全帯域を使用 |

**Bluetooth® 機器使用上の注意事項**

この機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに場所を変更するか、または電波の発射を停止した上、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための処置など（たとえば、パーティションの設置など）についてご相談ください。
3. その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先：パナソニック株式会社
パナソニック お客様ご相談センター
(⇨ 裏表紙 )

■　機器認定

本機は、電波法に基づく技術基準適合証明を受けていますので、無線局の免許は不要です。ただし、本機に以下の行為を行うと法律で罰せられることがあります。

- 分解 / 改造する
- 定格銘板を消す / はがす

■　使用制限

内蔵無線機器の使用に当たり、以下の制限がありますのであらかじめご了承ください。

制限をお守りいただけなかった場合、および内蔵無線機器の使用または使用不能から生ずる付随的な損害などについては、当社は一切の責任を負いかねます。

- 日本国内でのみ使用できます。
- 本体とアクティブサブウーハーは同一部屋内でお使いください。
- 本体とアクティブサブウーハーの間に障害物を置かないでください。また、本体やアクティブサブウーハーの上に物を置かないでください。
  – 本機の電波が届く範囲は、同一部屋内で最大 10 m です。本体とアクティブサブウーハーの間に障害物がある場合や、本体を床面から 50 cm 以下の高さに置いた場合は、電波の届く範囲は短くなります。
- 磁場・静電気・電波障害が発生するところで使用しないでください。
  次の機器の付近などで使用すると、通信が途切れたり、速度が遅くなることがあります。
  – 電子レンジ
  – デジタルコードレス電話機
  – その他2.4 GHz帯の電波を使用する機器の近く（ワイヤレスオーディオ機器、ゲーム機など）
  – 電波が反射しやすい金属物などの近く
- すべての Bluetooth® 機器との無線通信を保証するものではありません。
- 無線通信する Bluetooth® 機器は、The Bluetooth SIG, Inc. の定める標準規格に適合し、認証を受けている必要があります。ただし、標準規格に適合している機器であれば、一部動作する場合がありますが、機器の仕様や設定により、接続できないことがあり、操作方法･表示･動作を保証するものではありません。
- Bluetooth® 標準規格に準拠したセキュリティ機能に対応しておりますが、使用環境および設定内容によってはセキュリティが十分でない場合があります。ワイヤレス通信時はご注意ください。
- Bluetooth® 機器は､見通し距離約 10 m 以内でご使用ください。
- 放送局などが近くにあり周囲の電波が強すぎると、Bluetooth® 機器が正常に動作しないことがあります。
- 無線LAN を使用中にBluetooth®機器の音が途切れたり雑音が入る場合は、無線 LAN のご使用をお控えください。

■　用途制限

内蔵無線機器は一般用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途※での使用を想定して設計･製造されたものではありません。ハイセイフティ用途に使用しないでください。

※　ハイセイフティ用途とは、以下のような、きわめて高度な安全性が要求され、直接生命･身体に重大な危険性を伴う用途のことをいいます。
例：原子力施設における核反応制御 / 航空機自動飛行制御 / 航空交通管制 / 大量輸送システムにおける運航制御 / 生命維持のための医療機器 / 兵器システムにおけるミサイル発射制御など

# 保証とアフターサービス（よくお読みください）

**使いかた･お手入れ･修理などは**

**■　まず､お買い求め先へご相談ください。**

▼お買い上げの際に記入されると便利です

販売店名

電話　（　　）　ー

お買い上げ日　　年　月　日

**修理を依頼されるときは**

「故障かな！？」(⇨ 30 ～ 33) でご確認のあと、直らないときは、まず電源プラグを抜いて、お買い上げ日と下記の内容をご連絡ください。

| 製品名 | ホームシアターオーディオシステム |
|---|---|
| 品番 | SC-HTB690 |
| 故障の状況 | できるだけ具体的に |

**●保証期間中は、保証書の規定に従って出張修理いたします。**

保証期間 : お買い上げ日から本体 1 年間

**●保証期間終了後は、診断をして修理できる場合はご要望により修理させていただきます。**

※修理料金は次の内容で構成されています。

| 技術料 | 診断・修理・調整・点検などの費用 |
|---|---|
| 部品代 | 部品および補助材料代 |
| 出張料 | 技術者を派遣する費用 |

**※補修用性能部品の保有期間**　8 年

当社は、このホームシアターオーディオシステムの補修用性能部品（製品の機能を維持するための部品）を、製造打ち切り後 8 年保有しています。

**■　転居や贈答品などでお困りの場合は、次の窓口にご相談ください。**

ご使用の回線（IP 電話やひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。

**●使いかた・お手入れなどのご相談は・・・**

パナソニック お客様ご相談センター

電話　365日 受付9時～20時

フリーダイヤル　パナは　365日

携帯･PHS OK　**0120-878-365**

※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

**●修理に関するご相談は・・・**

パナソニック 修理ご相談窓口

電話

フリーダイヤル　パナは　イイヨ

携帯･PHS OK　**0120-878-554**

※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

• 上記電話番号がご利用いただけない場合は、各地域の「修理ご相談窓口」におかけください。

**【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】**

パナソニック株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくときのために発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

## 各地域の 修理ご相談窓口 ※電話番号をよくお確かめの上、おかけください。

● 地区・時間帯によって、集中修理ご相談窓口に転送させていただく場合がございます。

| 地区 | 電話番号 | 所在地 |
|---|---|---|
| **北海道地区** | | |
| 札 幌 | ☎(011)894-1255 | 札幌市厚別区厚別南2丁目17-7 |
| 旭 川 | ☎(0166)22-3015 | 旭川市2条通16丁目1166 |
| 帯 広 | ☎(0155)33-8478 | 帯広市西20条北2丁目23-3 |
| 函 館 | ☎(0138)48-6630 | 函館市西桔梗町589-241 |
| **東北地区** | | |
| 青 森 | ☎(0172)62-0880 | 青森市浪岡大字浪岡字稲村262-1 |
| 秋 田 | ☎(018)868-7008 | 秋田市外旭川字小谷地3-1 |
| 岩 手 | ☎(019)645-6130 | 盛岡市厨川5丁目1-43 |
| 宮 城 | ☎(022)387-1117 | 仙台市宮城野区扇町7-4-18 |
| 山 形 | ☎(023)641-8100 | 山形市平清水1丁目1-75 |
| 福 島 | ☎(024)991-9308 | 郡山市備前舘2丁目5 |
| **首都圏地区** | | |
| 栃 木 | ☎(028)689-2555 | 宇都宮市上戸祭3丁目3-19 |
| 群 馬 | ☎(027)254-2075 | 前橋市箱田町325-1 |
| 茨 城 | ☎(029)864-8756 | つくば市筑穂3丁目15-3 |
| 埼 玉 | ☎(048)728-8960 | 熊谷市宮町1丁目29番 |
| 千 葉 | ☎(043)208-6034 | 千葉市中央区末広5丁目9-5 |
| 東 京 | ☎(03)5477-9700 | 東京都杉並区本天沼3丁目43-16 |
| 山 梨 | ☎(055)222-5822 | 中央市山之神流通団地1-5-1 |
| 神奈川 | ☎(045)847-9720 | 横浜市戸塚区品濃町561-4 |
| 新 潟 | ☎(025)286-0180 | 新潟市東区東明1丁目8-14 |
| **中部地区** | | |
| 石 川 | ☎(076)280-6608 | 金沢市玉鉾2丁目266番地 |
| 富 山 | ☎(076)424-2549 | 富山市根塚町1丁目1-4 |
| 福 井 | ☎(0776)21-0622 | 福井市問屋町2丁目14 |
| 長 野 | ☎(0263)86-9209 | 松本市寿北7丁目3-11 |
| 静 岡 | ☎(054)287-9000 | 静岡市駿河区高松2丁目24-24 |
| 愛 知 | ☎(052)819-0225 | 名古屋市瑞穂区塩入町8-10 |
| 岐 阜 | ☎(058)278-6720 | 岐阜市中鶉4丁目42 |
| 三 重 | ☎(059)254-5520 | 津市久居野村町字山神421 |
| **近畿地区** | | |
| 滋 賀 | ☎(077)582-5021 | 栗東市小柿9丁目4-10 |
| 京 都 | ☎(075)646-2123 | 京都市南区上鳥羽中河原3番地 |
| 大 阪 | ☎(06)7730-8888 | 門真市松生町1-15 |
| 奈 良 | ☎(0743)59-2770 | 大和郡山市筒井町800番地 |
| 和歌山 | ☎(073)475-2984 | 和歌山市栗栖373-4 |
| 兵 庫 | ☎(078)796-3140 | 神戸市須磨区弥栄台3丁目13-4 |
| **中国地区** | | |
| 鳥 取 | ☎(0857)26-9695 | 鳥取市安長295-1 |
| 松 江 | ☎(0852)23-1128 | 松江市平成町182番地14 |
| 出 雲 | ☎(0853)21-3133 | 出雲市渡橋町416 |
| 浜 田 | ☎(0855)22-6629 | 浜田市下府町327-93 |
| 岡 山 | ☎(086)242-6236 | 岡山市北区野田3丁目20-14 |
| 広 島 | ☎(082)295-5011 | 広島市西区南観音1丁目13-5 |
| 山 口 | ☎(083)973-2720 | 山口市小郡下郷220-1 |
| **四国地区** | | |
| 香 川 | ☎(087)874-3110 | 高松市国分寺町国分359番地3 |
| 徳 島 | ☎(088)624-0253 | 徳島市沖浜2丁目36 |
| 高 知 | ☎(088)834-3142 | 高知市仲田町2-16 |
| 愛 媛 | ☎(089)905-7544 | 愛媛県伊予郡砥部町八倉75-1 |
| **九州地区** | | |
| 福 岡 | ☎(092)593-8002 | 春日市春日公園3丁目48 |
| 佐 賀 | ☎(0952)26-9151 | 佐賀市鍋島町大字八戸字上深町3044 |
| 長 崎 | ☎(095)830-1658 | 長崎市東町1919-1 |
| 大 分 | ☎(097)556-3815 | 大分市萩原4丁目8-35 |
| 宮 崎 | ☎(0985)63-1213 | 宮崎市本郷北方字草葉2099-2 |
| 熊 本 | ☎(096)367-6067 | 熊本市東区健軍本町12-3 |
| 鹿児島 | ☎(099)246-7050 | 鹿児島市上谷口町3128-3 |
| **沖縄地区** | | |
| 沖 縄 | ☎(098)877-1207 | 浦添市城間4丁目23-11 |

**所在地、電話番号は変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。**
**最新の「各地域の修理ご相談窓口」はホームページをご活用ください。**
http://www.panasonic.com/jp/support/consumer/repair/area.html 1114

●使いかた・お手入れなどのご相談は・・・

**パナソニック 総合お客様サポートサイト**

http://www.panasonic.com/jp/support/

**パナソニック お客様ご相談センター**

電話　365日 受付9時～20時

フリーダイヤル　パナは　365日

**0120-878-365**

※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

音声ガイダンスを短くするには、案内が聞こえたら電話機ボタンの「87」と「130 #」を押してください。
（番号を押しても案内が続く場合は、「＊」ボタンを押してから操作してください。）

■上記番号がご利用いただけない場合 06-6907-1187
■FAX フリーダイヤル 0120-878-236

**Help desk for foreign residents in Japan**
**Tokyo** (03) 3256-5444 **Osaka** (06) 6645-8787
Open : 9:00 - 17:30
(closed on Saturdays / Sundays / national holidays)

※上記の内容は、予告なく変更する場合があります。ご了承ください。

●修理に関するご相談は・・・

**パナソニック 修理サービスサイト**

http://club.panasonic.jp/repair/

インターネットでのご依頼も可能です。

**パナソニック 修理ご相談窓口**

電話

フリーダイヤル　パナは　イイヨ

**0120-878-554**

※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

• 上記電話番号がご利用いただけない場合は、各地域の「修理ご相談窓口」におかけください。

ご使用の回線（IP 電話やひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。
本書の「保証とアフターサービス」もご覧ください。

| 愛情点検 | 長年ご使用のホームシアターオーディオシステムの点検を! |
|---|---|
|  | こんな症状はありませんか ・煙が出たり、異常なにおいや音がする ・映像や音声が出ないことがある ・内部に水や異物が入った ・本体に変形や破損した部分がある ・その他の異常や故障がある ▶ ご使用中止 故障や事故防止のため、電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店に点検をご相談ください。 |

パナソニック株式会社
ホームエンターテインメント事業部
〒571－8504 大阪府門真市松生町 1 番 15 号



72-HTB690-120B3

SQT0851-1
F0315BL1045